

徳島中央公園は、ドイツのザイファースドルフ城がモデル - 107 年前の設計図をもとに推測 -

徳島公園（徳島中央公園の旧称）は明治 39 年（1906）に開園した日本で 2 番目に造られた西洋風近代公園であるにも関わらず、公園設計の詳細に踏込んだ研究は行われてこなかった。そのため、公園の意図や理念は歴史的に重要であるにも関わらず公園史の中で取り上げられることもなかった。

今回、徳島公園の歴史調査を行ない、明治 38 年（1905）の新聞に掲載された設計図と設計者による解説を見つけ、設計の詳細を明らかにすることができた。また、1880 年に刊行されたドイツの公園図集を調べたところ、徳島公園との類似するものが存在し、徳島公園設計の参考にしたと考えられる。

本研究の知見のうち、特に以下の三点はぜひ多くの人に知っていただきたいと考え、報道発表をお願いするものである。

① 「公園としての資質を備ふる点に於て蓋し日本の各公園中第一位」

これは、公園設計者である本多静六の言葉であり、その理由を三つ挙げている。第一点は、全国の多くの公園は山を公園内に取り入れるために、その場所が市街地から離れざるを得ないが、徳島公園は市の中心部に位置する城山を有している。第二点は、城山の天然林を有することで、この林相は 10 年や 20 年では形成されない貴重なものである。各地の公園が園内に森林を造ろうと汲々としているが、人の力ではどうにもならないことである。第三点は、園内に山とその森林を有している上に、助任川、寺島川の水脈に囲まれ、かつ海を臨んでいる山水の勝に恵まれている。

② 城山の保護

公園設計者である本多はもともと林学博士であり、上記のように城山の天然林の価値を熟知していた。よって、これを守るため公園設計の際に、山中や山頂に建築物を設けることを極力避けた。現在も「城山の原生林」は特定植物群落や市指定天然記念物として保護が図られている。

③ ドイツのザイファースドルフ城を参考に設計

本多は、徳島公園を設計する前に、日本で初の西洋風近代公園である日比谷公園を設計した。その際、彼はドイツの公園の設計図集を参考にしていた。そこで、同書入手し、徳島公園のモチーフとなった図が存在するかどうか調べたところ、ドイツのザイファースドルフ城との類似が確認された。これはドイツのザクセン州ラーデベルク近くのザイファースドルフにある 13 世紀に作られた Brühl 伯爵の城である。19 世紀の始めに改築され現在に至っている。本多による直接の言及はないが、この城を参考に徳島公園を設計したと推測される。

お問い合わせ先

部局名：ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

責任者：佐藤 征弥

担当者：佐藤 征弥

電話番号：088-656-7222

メールアドレス：sato@ias.tokushima-u.ac.jp